

科目名	運動学実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	PT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	機能訓練室	
授業概要	運動学の知識をもとに、実際の身体運動を観察することを通じて、その仕組みについてさらに理解を深めることができる内容を学習する。									
一般目標	基本動作・歩行について運動学的に観察することを通じて、身体運動・動作の特徴やその仕組みを修得する。									
テキスト 参考書等	観察による歩行分析(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域)		
・基本動作・歩行について観察し、説明できる。		
技術(精神運動領域)		
・基本動作・歩行について観察し、模倣できる。		
態度(情意領域)		
・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)		
・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	解剖見学(運動器)①	解剖見学事前準備として、運動器について理解を深め、説明することができる。
2	解剖見学(運動器)②	解剖見学において、運動器について理解を深め、説明することができる。
3	歩行の基礎	正常歩行の歩行周期を説明できる。
4	正常歩行における下肢と体幹の役割	正常歩行における下肢と体幹の役割について説明できる。
5	10m歩行測定	10m歩行を測定することができる。 測定結果をもとに歩行率・歩幅・速度等を算出できる。
6	歩行周期まとめ①	歩行周期について説明できる
7	歩行周期まとめ②	歩行周期について説明できる
8	歩行における関節運動と機能 正常歩行演習	正常歩行について各相に分けてその役割とメカニズムを説明できる。 自身の歩行を文章化し、まとめることができる。
9	代表的な逸脱歩行とその原因	代表的な逸脱歩行についてその原因を説明することができる。 代表的な逸脱歩行についてその現象を理解し模倣することができる。
10	逸脱歩行めとめ 逸脱歩行演習①	逸脱歩行について理解し説明できる。 代表的な逸脱歩行について文章化し、まとめることができる。
11	逸脱歩行演習②	代表的な逸脱歩行について文章化し、まとめることができる。
12	逸脱歩行演習③	グループワークにて自身がまとめた症例について模倣しながら説明できる。
13	逸脱歩行観察(症例1)	逸脱歩行の観察を行い、文章化することができる。
14	逸脱歩行観察(症例2)	逸脱歩行の観察を行い、文章化することができる。
15	歩行観察まとめ	歩行観察のポイントについて理解し、説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート	○			評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品		○		評価なし	不可(0):60未満 未修得
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	加藤 善範		実務経験紹介	理学療法業務の中で、運動学に基づいた歩行観察の経験あり。	

科目名	理学療法評価法C				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	PT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	402教室・治療室
授業概要	理学療法評価は対象者の状態を把握し理学療法プログラムを立案するために必要不可欠である。本授業では、理学療法評価のうち、感覚、反射、筋緊張、痛みの各検査についてその基本的知識・技術を学習する。								
一般目標	・感覚、反射、筋緊張、痛みの各検査について、その目的や内容に関する知識を修得する。 ・感覚、反射、筋緊張、痛みの各検査について、基本的技術を修得する。								
テキスト 参考書等	神経診察クローズアップ（メジカルビュー社） 打鍵器								

到達目標		
知識(認知領域) ・感覚、反射、筋緊張、痛みの各検査について、その目的や内容について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・模擬患者(学生)を対象に上記検査を正確かつ迅速に実施できる。		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	感覚検査①	・感覚の概念が説明できる。 ・体性感覚を3つに分類し、それぞれに含まれる感覚について具体的に説明できる。 ・障害レベルの違いによる感覚障害の分布パターンについて説明できる。
2	感覚検査②	・手順書に従って、模擬患者(学生)に対する触覚検査が実施できる。 ・手順書に従って、模擬患者(学生)に対する痛覚検査が実施できる。
3	感覚検査③	・深部感覚の概念(伝導路を含む)について説明ができる。 ・腱反射の生理学的メカニズムについてできる。
4	感覚検査④	・手順書に従って、模擬患者(学生)に対する振動覚検査が実施できる。 ・手順書に従って、模擬患者(学生)に対する2点識別覚検査が実施できる。
5	感覚検査⑤	・手順書に従って、模擬患者(学生)に対する関節覚検査が実施できる。
6	反射検査①	・反射の概念、腱反射異常のメカニズムが説明できる。反射を3つに分類し、それぞれの代表例を列挙できる。 ・打鍵器を適切に使用できる。 ・反射検査の判定方法が説明できる
7	反射検査②	・腱反射・表在反射を形成する反射路(求心路、遠心路)・反射中枢を述べることができる。 ・各種反射の実施手順が説明できる。
8	反射検査③	・健常者を対象に腱反射が適切に実施できる。
9	反射検査④	・健常者を対象に病的反射、表在反射が適切に実施できる。
10	筋緊張検査①	・正常筋緊張と異常筋緊張の生理学的メカニズムが説明できる。 ・模擬患者(学生)に対する被動試験を正確に実施できる。
11	筋緊張検査②	・アシュワース・スケール(尺度)変法(MAS)の各グレードを述べることができる。 ・筋緊張異常でみられる異常運動について説明できる。
12	痛みの検査①	・授業内で視聴する痛み動画のポイントを列挙できる。 ・自身の痛み体験を言葉で説明できる。 ・痛みの3つの側面を列挙できる。
13	痛みの検査②	・痛みの定義(IASP)を説明することができる。 ・各種痛み評価スケールの目的・使用方法が説明でき、健常者を対象に痛み評価を模擬的に実施できる。
14	痛みの検査③	・模擬患者(学生)に対して疼痛検査を的確に行うことができる。
15	総合演習	・まとめ課題に対し、適切な解答を提示できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	山本 悟		実務経験紹介	理学療法士として約30年間医療施設に勤務し、患者に対する理学療法評価を実施。	

科目名	理学療法評価法D					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	402教室・治療室	
授業概要	理学療法評価に必要な主要な評価項目のうち脳血管障害の評価について実習を交えながら学習する。									
一般目標	①各評価の意義や目的,検査の実施方法を修得する。②検査結果から症状を説明できる能力を修得する。									
テキスト 参考書等	テキスト:適宜資料を配布する。 参考書:病気がみえる 脳・神経(medicmedia)、脳画像の新しい勉強本(三輪書店)、片麻痺機能検査・協調性検査(三輪書店)									

到達目標		
知識(認知領域) ・脳の解剖生理学の知識定着を前提条件とし、各検査の意義や目的、検査で生じる現象を説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・授業に出席する。 ・授業内容に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	脳の解剖生理および機能局在について①	解剖生理学の知識を前提に、脳血管障害後遺症で生じる現象や理学療法評価を行う意義・目的について説明できる。
2	脳の解剖生理および機能局在について②	解剖生理学の知識を前提に、脳血管障害後遺症で生じる現象や理学療法評価を行う意義・目的について説明できる。
3	失語症①	脳神経検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
4	失語症②	脳神経検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
5	高次脳機能検査①	高次脳機能障害を検査する目的・意義・方法について説明し、実施できる。
6	高次脳機能検査②	高次脳機能障害を検査する目的・意義・方法について説明し、実施できる。
7	姿勢反射・バランス評価①	姿勢反射・バランスを検査する目的・意義・方法について説明し、実施できる。
8	姿勢反射・バランス評価②	姿勢反射・バランスを検査する目的・意義・方法について説明し、実施できる。
9	姿勢反射・バランス評価③	姿勢反射・バランスを検査する目的・意義・方法について説明し、実施できる。
10	協調運動の検査①	協調性について理解し、説明することができる。協調運動の検査の目的・意義・方法について説明し、実施できる。
11	協調運動の検査②	協調性について理解し、説明することができる。協調運動の検査の目的・意義・方法について説明し、実施できる。
12	協調運動の検査③	協調性について理解し、説明することができる。協調運動の検査の目的・意義・方法について説明し、実施できる。
13	片麻痺機能検査①	片麻痺機能検査について理解し、説明することができる。片麻痺機能検査の目的・意義・方法について説明し、実施できる。
14	片麻痺機能検査②	片麻痺機能検査について理解し、説明することができる。片麻痺機能検査の目的・意義・方法について説明し、実施できる。
15	片麻痺機能検査③	片麻痺機能検査について理解し、説明することができる。片麻痺機能検査の目的・意義・方法について説明し、実施できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	川崎 裕史		実務経験紹介	理学療法士として医療機関に従事し、理学療法評価に携わってきた。	

科目名	理学療法評価法実習A				単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	PT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	治療室
授業概要	1年次から2年次前期までに学んだ各理学療法評価法についての知識定着の確認と整理を行い、3年次のOSCEに繋げていく。								
一般目標	各評価項目の知識の再検討と整理を行い、適切に各評価が行える。								
テキスト 参考書等	改訂第2版 神経診察クロズアップ 正しい病巣診断のコツ(メジカルビュー)、新・徒手筋力検査法 原著第9版(協同医書出版社) 図解 理学療法検査・測定ガイド(文光堂)								

到達目標		
知識(認知領域) 授業で取り上げた理学療法評価について説明できる。		
技術(精神運動領域) 授業で取り上げた理学療法評価について実施できる。		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	理学療法評価概論(友原)	評価の概論・医療面接を症例を想定し実践できる。
2	形態測定実習(友原)	形態測定を症例を想定し実践できる。
3	ROM実習(上肢)(友原)	上肢のROM測定を症例を想定し実践できる。
4	ROM実習(下肢)(友原)	下肢のROM測定を症例を想定し実践できる。
5	ROM実習(体幹・総括)(友原)	体幹のROM測定を症例を想定し実践できる。
6	知覚検査・反射検査実習(山本)	知覚検査・反射検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
7	筋緊張・疼痛検査実習(山本)	筋緊張・疼痛検査の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
8	片麻痺機能検査実習(上肢)(川崎)	片麻痺機能検査(上肢)の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
9	片麻痺機能検査実習(下肢)(川崎)	片麻痺機能検査(下肢)の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
10	バランス評価実習(平衡反応)(川崎)	バランス評価(平衡反応)の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
11	バランス評価実習(バランス)(川崎)	バランス評価(バランス)の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
12	片麻痺機能検査、バランス評価演習(川崎)	患者の状態や環境に応じて片麻痺機能検査やバランス評価を実施することができる。
13	徒手筋力検査実習(上肢)(川崎)	徒手筋力検査(上肢)の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
14	徒手筋力検査実習(下肢)(川崎)	徒手筋力検査(下肢)の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
15	徒手筋力検査実習演習(川崎)	患者の状態や環境に応じて徒手筋力検査を実施することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	山本 悟、友原 望美、他		実務経験紹介	理学療法士として医療機関で理学療法評価の経験あり。(友原)	

科目名	日常生活活動B				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	402教室
授業概要	日常生活活動Aで学んだ用語の説明や評価方法、歩行補助具の調節方法などを基盤に、各種疾患におけるADL指導を学んでいく。								
一般目標	疾患別ADLについて適切な評価を実施し、実際の訓練・指導方法を修得する。								
テキスト 参考書等	シンプル理学療法シリーズ 日常生活活動学テキスト（南江堂） その他、必要な資料を適宜配布する。								

到達目標		
知識(認知領域) 授業で取り上げた疾患別のADL指導について説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	大腿骨頸部骨折のADL①	大腿骨頸部骨折について理解し、ADL指導を説明できる。
2	大腿骨頸部骨折のADL②	大腿骨頸部骨折のADL指導を実施できる。
3	パーキンソン病のADL①	パーキンソン病について理解し、ADL指導を説明できる。
4	パーキンソン病のADL②	パーキンソン病のADL指導を実施できる。
5	関節リウマチのADL①	関節リウマチについて理解し、ADL指導を説明できる。
6	関節リウマチのADL②	関節リウマチのADL指導を実施できる。
7	脳血管障害後遺症のADL①	脳血管障害後遺症について理解し、ADL指導を説明できる。
8	脳血管障害後遺症のADL②	脳血管障害後遺症(軽度)のADL指導を実施できる。
9	脳血管障害後遺症のADL③	脳血管障害後遺症(重度)のADL指導を実施できる。
10	脊髄損傷のADL①	脊髄損傷について説明できる。
11	脊髄損傷のADL②	脊髄損傷の住宅改修について説明し、改修箇所と内容について提案することができる。
12	脊髄損傷のADL③	脊髄損傷(軽度)のADL指導を実施できる。
13	脊髄損傷のADL④	脊髄損傷(重度)のADL指導を実施できる。
14	症例検討①	授業で取り上げた大腿骨頸部骨折について、ICFで情報を整理し、適切なADL指導と環境調整の提案を行うことができる。
15	症例検討②	授業で取り上げた脳血管障害後遺症について、ICFで情報を整理し、適切なADL指導と環境調整の提案を行うことができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	川崎 裕史		実務経験紹介	理学療法士として医療機関に従事し、ADLに関する評価や指導に携わってきた。	

科目名	日常生活活動実習A				単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	PT2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	402教室・治療室
授業概要	1年次に履修した日常生活活動Aの知識を再確認しながら、実践的な日常生活活動の支援や実技を習得する。実技は主に、移動動作能力についての介助方法を習得する。また福祉機器、自具、住環境整備を設定できるようになる。								
一般目標	・トランスファーを始めとした各動作の介助を身につける。 ・日常生活活動の評価表を使用を習得する。 ・日常生活活動における福祉機器を使用を身につける。								
テキスト 参考書等	適宜配布する。								

到達目標		
知識(認知領域)		
・身体介助の基本について説明できる。 ・日常生活活動の評価表の種類を列挙し、説明できる。		
技術(精神運動領域)		
・身体介助ができる。 ・BI、FIMが採点できる。		
態度(情意領域)		
・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	日常生活活動(ADL)の評価について	日常生活活動(ADL)の評価(Barthel Index / FIM)について説明・実施できる。
2	日常生活活動(ADL)の範囲と身の回りの動作	日常生活活動(ADL)の範囲について説明し、身の回りの動作介助が実施できる。
3	日常生活活動(ADL)の分析	日常生活活動(ADL)の分析について説明・実施できる。
4	日常生活活動(ADL)における移動動作・歩行	日常生活活動(ADL)における移動動作・歩行について説明できる。
5	床上動作の介助	床上動作の介助が実施できる。
6	床上動作の介助	床上動作の介助が実施できる。
7	移乗動作・移乗の原則	移乗動作・移乗の原則について説明・実施できる。
8	移乗動作介助(Scouting)	移乗動作介助(Scouting)ができる。
9	移乗動作介助(Under Arm Transfer)	移乗動作介助(Under Arm Transfer)ができる。
10	移乗動作介助(Over Arm Transfer)	移乗動作介助(Over Arm Transfer)ができる。
11	移乗動作介助(Sliding Board Transfer)	移乗動作介助(Sliding Board Transfer)ができる。
12	移乗動作介助(Standing Pivot Transfer)	移乗動作介助(Standing Pivot Transfer)ができる。
13	移乗動作介助(複数人でのトランスファー)	移乗動作介助(複数人でのトランスファー)ができる。
14	移乗動作介助(複数人でのトランスファー)	移乗動作介助(複数人でのトランスファー)ができる。
15	移乗機器の操作	移乗機器の操作ができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習	○	○		評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	島本 祐嗣		実務経験紹介	理学療法士として11年の経験があり、訪問リハビリなど幅広くADLに関わった	

科目名	義肢装具学A					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	402教室	
授業概要	リハビリテーション医療における義肢装具の役割は重要である。本授業ではリハビリテーションの中で用いる装具の選択・取り扱いが的確に実施することについて学ぶ。また、国家試験を取り入れ、国家試験に対応できるようにしていく。									
一般目標	授業で取り上げた、上肢装具、下肢装具、体幹装具の基礎知識、取り扱いや装着・操作方法を説明することができ、国家試験問題に対応を身に付ける。									
テキスト 参考書等	シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第3版(南江堂) 義肢装具チェックポイント(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域) ・上肢装具、下肢装具、体幹装具の基礎知識、取り扱いや装着・操作方法を説明する事ができる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。 ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	装具学総論	装具の概要について説明できる。
2	上肢装具①肩装具、肘装具	肩装具、肘装具の種類・取り扱いを説明できる。
3	上肢装具②対立装具、把持装具、手関節装具	対立装具、把持装具、手関節装具の種類・取り扱いを説明できる。
4	上肢装具③手指装具	手指装具の種類・取り扱いを説明できる。
5	その他の上肢装具	その他の上肢装具の種類・取り扱いを説明できる。
6	体幹装具①頸椎、胸椎装具	頸椎、胸椎装具の種類・取り扱いを説明できる。
7	体幹装具②腰椎、腰仙椎装具その他	腰椎、腰仙椎装具の種類・取り扱いを説明できる。
8	体幹装具③側弯装具、その他	側弯装具の種類・取り扱いを説明できる。
9	下肢装具①短下肢装具	短下肢装具の種類・取り扱いを説明できる。
10	下肢装具②長下肢装具	長下肢装具の種類・取り扱いを説明できる。
11	下肢装具③免荷装具	免荷装具の種類・取り扱いを説明できる。
12	下肢装具④骨折装具	骨折装具の種類・取り扱いを説明できる。
13	下肢装具⑤小児疾患に対する下肢装具	小児疾患に対する下肢装具の種類・取り扱いを説明できる。
14	下肢装具⑥靴型装具	靴型装具の種類・取り扱いを説明できる。
15	下肢装具⑦その他の下肢装具	その他の下肢装具の種類・取り扱いを説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	藤井 昭宏		実務経験紹介	理学療法士として10年間、急性期病院に勤務。義肢および装具のコーディネーターを担当。	

科目名	義肢装具学B					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	402教室・木工室	
授業概要	義肢装具は関節の固定や矯正・安静・保護、失われた機能の代償として用いられる。近年の義肢装具分野は人間工学や材料工学の発展に伴い著しく進歩している。この授業では義肢についての知識を修得するとともに、最近の知見やエビデンスに加え、症例紹介や疾患別の義肢装具処方について学習する。									
一般目標	・義肢についての知識を修得する。 ・症例を通じて疾患別の義肢装具処方の流れと方法について修得する。									
テキスト 参考書等	シンブル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト（南江堂） 義肢装具チェックポイント(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域)		
・義肢の基礎知識、取り扱いや装着・操作方法を説明する事ができる。		
技術(精神運動領域)		
・義肢の取り扱い、装着、操作を適切に実施できる。		
態度(情意領域)		
・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	義肢学総論、切断について	義肢の概要および切断について説明できる。
2	切断とADL	切断患者のADLについて理解し、説明できる。
3	良肢位保持と測定	切断患者の良肢位について理解し説明できる。 切断患者の測定について理解し説明できる。
4	義足体験、義足の理解	体験用義足を使用し、その使用方法について理解できる。 スケッチを通して義足の細部まで観察し、その構造と役割を理解できる。
5	切断患者の生活	切断患者の話を受け、そのADLおよび社会とのつながりについて理解できる。
6	断端管理、弾性包帯法	切断肢の断端管理について理解し説明できる。
7	股離断・大腿切断と義足	股離断・大腿切断について理解し、股義足・大腿義足の種類・取り扱いを説明できる。
8	膝離断と義足、膝継手	膝関節離断について理解し説明できる。 膝継手の種類・取り扱いを説明できる。
9	下腿切断・サ임切断と義足、足継手	下腿切断・サ임切断について理解し説明できる。 足継手の種類・取り扱いを説明できる。
10	ギブス包帯実技	ギブス包帯を実施できる。
11	スプリント作成実技	スプリントを作成できる。
12	大腿義足歩行	大腿義足について説明できる。
13	下腿義足歩行	下腿義足について説明できる。
14	切断のリハビリテーション、義足とADL	切断のリハビリテーション、義足とADL
15	義肢まとめ(国家試験問題)	国家試験過去問題の学習を通じて、義肢について理解を深め、説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート		○		評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品		○		評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	加藤 善範		実務経験紹介	理学療法業務の中で、義肢装具に関わる経験あり。	

科目名	物理療法A					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	402教室・治療室	
授業概要	理学療法法の2本柱である物理療法について、物理刺激の原理から生体に及ぼす影響と、その対象となる症状や疾患について理解を深める。また、物理機器の取り扱いができるように器機を用いた授業を展開する。									
一般目標	・物理療法に必要な基礎知識について習得する。 ・物理エネルギーが生体に及ぼす影響について習得する。 ・物理療法の器機を安全な使用を習得する。									
テキスト 参考書等	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト(南江堂)									

到達目標		
知識(認知領域)		
・物理療法に必要な基礎知識について説明することができる。 ・物理エネルギーが生体に及ぼす影響を説明することができる。		
技術(精神運動領域)		
・物理療法の器機を安全に使用することができる。		
態度(情意領域)		
・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	物理療法の概要	物理療法の概要について説明できる。
2	物理療法の生理学的基礎	物理療法の生理学的基礎について説明できる。
3	物理療法の禁忌と適応	物理療法の禁忌と適応について説明できる。
4	温熱療法の概要	温熱療法の概要について説明できる。
5	ホットパック・パラフィン浴	ホットパック・パラフィン浴について説明できる
6	温熱療法実習	温熱療法(ホットパック・パラフィン浴)が実施できる。
7	エネルギー変換療法の概要	エネルギー変換療法の概要について説明できる。
8	極超短波・超短波療法	極超短波・超短波療法について説明できる。
9	超音波療法	超音波療法について説明できる。
10	エネルギー変換療法実習	エネルギー変換療法(極超短波・超音波)が実施できる。
11	寒冷療法の概要	寒冷療法の概要について説明できる。
12	伝導冷却法・対流冷却法・気化冷却法	伝導冷却法・対流冷却法・気化冷却法について説明できる。
13	寒冷療法実習	寒冷療法(アイスパック・アイスクリッカー)が実施できる。
14	グループワーク	割り当てられた物理療法機器の効果を検証する実験的介入ができる。
15	グループワーク発表	実験から得られた生体の変化についてまとめ、発表することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	島本 祐嗣		実務経験紹介	理学療法士として医療機関に従事し、物理療法に携わってきた。	

科目名	物理療法B					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	402教室・治療室	
授業概要	理学療法法の2本柱である物理療法について、物理刺激の原理から生体に及ぼす影響と、その対象となる症状や疾患について理解を深める。また、物理機器の取り扱いができるように器機を用いた授業を展開する。									
一般目標	・物理療法に必要な基礎知識を習得する。 ・物理エネルギーが生体に及ぼす影響を理解する。 ・物理療法の器機を安全な使用を習得する。									
テキスト 参考書等	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト(南江堂)									

到達目標		
知識(認知領域) ・物理療法に必要な基礎知識について説明することができる。 ・物理エネルギーが生体に及ぼす影響を説明することができる。		
技術(精神運動領域) ・物理療法の器機を安全に使用することができる。		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	電気刺激療法の概要	電気刺激療法療法の概要について説明できる。
2	経皮的電気神経刺激(TENS)	経皮的電気神経刺激(TENS)について説明できる。
3	神経筋電気刺激(NMES)	神経筋電気刺激(NMES)について説明できる。
4	電気刺激療法実習	電気刺激療法が実施できる。
5	光線療法の概要	光線療法について説明できる。
6	レーザー療法・紫外線療法・赤外線療法	レーザー療法・紫外線療法・赤外線療法について説明できる。
7	光線療法実習	光線療法が実施できる。
8	力学危機を用いた治療	力学危機を用いた治療について説明できる。
9	牽引療法・CPM	牽引療法・CPMについて説明できる。
10	力学機器を用いた治療実習	力学機器を用いた治療が実施できる。
11	水治療法の概要	水治療法の概要について説明できる。
12	過流浴・気泡浴、プール療法	過流浴・気泡浴、プール療法について説明できる。
13	水治療法実習	水治療法過流浴・気泡浴、プール療法)が実施できる。
14	グループワーク	割り当てられた物理療法機器の効果を検証する実験的介入ができる。
15	グループワーク発表	実験から得られた生体の変化についてまとめ、発表することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	島本 祐嗣		実務経験紹介	理学療法士として医療機関に従事し、物理療法に携わってきた。	

科目名	運動療法概論A					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	402教室	
授業概要	運動療法の主な治療対象になる機能形態障害は、実に様々な疾患により引き起こされる。本授業ではその起因疾患により各障害に対する治療原則が異なることを理解し、予防・悪化防止のための方策として運動療法を的確に実施することについて学習する。									
一般目標	運動療法を実施するために医学的根拠に基づいた適切な方法を修得する。									
テキスト 参考書等	シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト(南江堂)									

到達目標		
知識(認知領域) ・授業で取り上げた運動療法について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・授業で取り上げた運動療法について実施できる。		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	運動療法の基礎	運動療法の定義、目的、対象、種類、特性、禁忌事項、インフォームドコンセントの重要性について説明できる。
2	運動療法の必要性、効果、順序	運動療法の効果、開始基準とリスク管理、筋収縮を伴う運動・伴わない運動、起居移動動作やADL訓練へと進める運動療法の流れについて説明できる。
3	筋の機能と障害	骨格筋の構造と機能が説明できる。 骨格筋の収縮形態について説明できる。
4	トレーニング理論①	体力テストの事前準備を通じて、体力の要素について理解を深め、説明することができる。
5	トレーニング理論②	体力テストを通じて、評価の重要性について理解し、説明することができる。
6	トレーニング理論③	体力の要素、体力テストの内容を考慮したトレーニングを組み立てることができる。
7	トレーニング理論④	体力の要素、体力テストの内容を考慮し組み立てたトレーニングについて、その理由を説明できる。
8	リラクセーション訓練	リラクセーション訓練によって得られる反応を説明できる。 代表的なリラクセーション訓練を実施できる。
9	筋力増強訓練①	安全で効果的な筋力増強訓練の実施に求められる、筋力決定因子・筋力増強訓練の目的・メカニズム・影響を及ぼす因子・基本原則および方法について説明できる。
10	筋力増強訓練②	筋力増強訓練の準備ができる。 対象者に筋力増強訓練を指示し、実施できる。 リスクや代償運動を理解し、配慮することができる。
11	関節の基礎	骨・関節について理解し、説明できる。 ストレッチングの方法・特徴・注意点について説明できる。
12	ストレッチング・関節可動域練習①	ストレッチングの方法・特徴・効果について理解し実施できる。 関節可動域訓練の方法・特徴・効果について理解し実施できる。
13	ストレッチング・関節可動域練習②	ストレッチングの方法・特徴・効果について理解し実施できる。 関節可動域訓練の方法・特徴・効果について理解し実施できる。
14	ストレッチング・関節可動域練習③	ストレッチングの方法・特徴・効果について理解し実施できる。 関節可動域訓練の方法・特徴・効果について理解し実施できる。
15	ストレッチング・関節可動域練習④	ストレッチングの方法・特徴・効果について理解し実施できる。 関節可動域訓練の方法・特徴・効果について理解し実施できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	加藤 善範		実務経験紹介	理学療法士として5年間、整形外科関連医療施設に勤務。運動療法の実施経験あり。	

科目名	運動療法概論B				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	402教室
授業概要	運動療法の主な治療対象になる機能形態障害は、実に様々な疾患により引き起こされる。本授業ではその起因疾患により各障害に対する治療原則が異なることを理解し、予防・悪化防止のための方策として運動療法を的確に実施することについて説明する。								
一般目標	運動療法を実施するために必要な知識を修得し、医学的根拠に基づいて適切に実施できる。								
テキスト 参考書等	シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト(南江堂)								

到達目標		
知識(認知領域) ・授業で取り上げた運動療法について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・授業で取り上げた運動療法について実施できる。		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	運動と呼吸	運動による呼吸機能への影響について説明できる。
2	呼吸器疾患と治療	呼吸器疾患の一般的な治療、意義・目的・方法について説明し、実施できる。
3	呼吸訓練	呼吸訓練の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
4	運動と循環 ティルトテーブル	運動と循環について理解し、説明できる。 ティルトテーブルの意義・目的・方法について説明し、実施できる。
5	循環器疾患の運動療法 レジスタンストレーニング	循環器疾患の運動療法について理解し、実施できる。 レジスタンストレーニングの意義・目的・方法について説明し、実施できる。
6	運動と代謝	運動と代謝について理解し、説明できる。
7	持久力訓練 自転車エルゴメーター、トレッドミル	持久力訓練の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
8	運動と協調性 フレンケル体操	協調性運動の基本について説明できる。協調性訓練の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
9	体幹機能障害(腰痛症)に対する体操① ウィリアムス体操	腰痛症について理解し、説明できる。 ウィリアムス体操の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
10	体幹機能障害(側弯症と圧迫骨折)に対する体操② クラブ体操とペーラー体操	側弯症と圧迫骨折について理解し、説明できる。 クラブ体操とペーラー体操の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
11	末梢循環障害・肩関節障害に対する体操 バージャー体操・コッドマン体操	末梢循環障害・肩関節障害について説明できる。 バージャー体操・コッドマン体操の意義・目的・方法について説明し、実施できる。
12	運動療法まとめ①	授業で取り上げた運動療法について説明し、実施できる。
13	運動療法まとめ②	授業で取り上げた運動療法について説明し、実施できる。
14	運動療法まとめ③	授業で取り上げた運動療法について説明し、実施できる。
15	運動療法まとめ④	授業で取り上げた運動療法について説明し、実施できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート	○			評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品		○		評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	加藤 善範		実務経験紹介	理学療法業務の中で、運動療法の実施経験あり。	

科目名	骨関節障害理学療法学A				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	PT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	402教室・治療室
授業概要	運動療法は物理療法と並ぶ理学療法の主要な治療法であり、その知識・技術を習得することは理学療法士にとって必須である。この授業では、理学療法士が対象とする機会の多い運動器疾患を取り上げ、その運動療法について基本的知識・技術を学習する。								
一般目標	・主要な運動器疾患の運動療法に関する基本的知識を修得する。								
テキスト 参考書等	運動器の運動療法(羊土社) 随時、資料を配布する。								

到達目標		
知識(認知領域)		
・主要な整形外科疾患の運動療法について、その目的や内容が説明できる。		
技術(精神運動領域)		
・模擬患者(学生)を対象に基本的運動療法が適切に実施できる。		
態度(情意領域)		
・授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	運動器運動療法の基礎	・運動器運動療法の基本概念が説明できる。
2	関節可動域運動の基礎	・関節可動域運動の基本概念が説明できる。
3	筋力運動の基礎	・筋力運動の基本概念が説明できる。
4	肩関節に対する運動療法	・肩関節疾患に対する運動療法の概要について説明できる。
5	肘関節に対する運動療法	・肘関節疾患に対する運動療法の概要について説明できる。
6	手関節・手部に対する運動療法	・手関節・手部疾患に対する運動療法の概要について説明できる。
7	股関節に対する運動療法①	・股関節疾患に対する運動療法の概要について説明できる。
8	股関節に対する運動療法②	・股関節疾患に対する運動療法の概要について説明できる。
9	股関節に対する運動療法③	・股関節疾患に対する運動療法の概要について説明できる。
10	膝関節に対する運動療法①	・膝関節疾患に対する運動療法の概要について説明できる。
11	膝関節に対する運動療法②	・膝関節疾患に対する運動療法の概要について説明できる。
12	足関節に対する運動療法	・足関節疾患に対する運動療法の概要について説明できる。
13	体幹に対する運動療法①	・頸部疾患に対する運動療法の概要について説明できる。
14	体幹に対する運動療法②	・腰部疾患に対する運動療法の概要について説明できる。
15	まとめ	・各身体各部位の運動器疾患に対する運動療法の概要についてまとめることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	山本 悟		実務経験紹介	理学療法士として約30年間、医療施設に勤務し整形外科疾患患者の運動療法を行う。	

科目名	神経障害理学療法学A				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	402教室・治療室
授業概要	神経疾患は理学療法の主要な対象疾患である。中枢神経障害では多種多様な症状・徴候を認めることが多いため、私たち理学療法士は、失われた機能をどのように再獲得するか、あるいはどのようにしたら残存機能を高めたり、維持したりすることが出来るのか、そうした判断が的確にできなくてはならない。そのために、脳血管障害をはじめとする中枢神経障害の運動療法を学習する。								
一般目標	脳血管障害をはじめとした中枢神経障害の理学療法の基本的な知識を身につける。								
テキスト 参考書等	神経障害理学療法学(羊土社) 随時、資料を配布する。								

到達目標		
知識(認知領域) ・脳血管障害をはじめとした中枢神経障害の運動療法について理解し説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。 ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	神経障害との理学療法	主要な中枢神経疾患の病態について説明することができる。
2	脳卒中急性期の運動療法①	脳卒中片麻痺(急性期)の運動療法について説明することができる。
3	脳卒中急性期の運動療法②	脳卒中片麻痺(急性期)の運動療法について説明することができる。
4	脳卒中回復期の運動療法①	脳卒中片麻痺(回復期)の運動療法について説明することができる。
5	脳卒中回復期の運動療法②	脳卒中片麻痺(回復期)の運動療法について説明することができる。
6	脳卒中回復期の運動療法③	脳卒中片麻痺(回復期)の運動療法について説明することができる。
7	脳卒中維持期の運動療法①	脳卒中片麻痺(維持期)の運動療法について説明することができる。
8	脳卒中維持期の運動療法②	脳卒中片麻痺(維持期)の運動療法について説明することができる。
9	パーキンソン病の運動療法①	・パーキンソン病の運動療法について説明することができる。
10	パーキンソン病の運動療法②	・パーキンソン病の運動療法について説明することができる。
11	脊髄小脳変性症の運動療法①	・脊髄小脳変性症(運動失調)の運動療法について説明することができる。
12	脊髄小脳変性症の運動療法②	・脊髄小脳変性症(運動失調)の運動療法について説明することができる。
13	その他中枢神経系疾患の病態	・筋委縮性側索硬化症の運動療法について説明することができる。
14	その他中枢神経系疾患の運動療法	・多発性硬化症の運動療法について説明することができる。
15	まとめ	・主要な中枢神経疾患の病態と運動療法の概要について説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	山本 悟		実務経験紹介	理学療法士として医療機関に従事し、神経障害の理学療法に携わる経験あり。	

科目名	神経障害理学療法学B				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	402教室・治療室
授業概要	各種神経障害に関する一般的な評価・治療法について知識を整理し、症例検討を通して疾患への理解と理学療法に関わり方を深める。								
一般目標	・各種神経障害に関する一般的な治療法を説明できる。 ・部位別、疾患別に診断・評価・治療を説明できる。 ・症例検討では、適切な検査・測定を選択し、模倣・実施ができる。								
テキスト 参考書等	「マッスルエナジーテクニック」－全身の筋肉に適応できるホールドリラックスアプローチ ガイアックス社（弓岡分） 脳卒中理学療法の理論と技術 メジカルビュー社（宍戸分） その他、適宜資料を配布します。（藤井分）								

到達目標		
知識(認知領域) ・授業で取り上げた疾患および治療法について説明できる。 ・脳卒中の基礎を理解できる。		
技術(精神運動領域) ・授業で取り上げた、動作分析、運動療法について説明できる。		
態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	Bobathアプローチ①（弓岡）	Bobathアプローチについて説明できる。
2	Bobathアプローチ②（弓岡）	動作分析と触診に基づいた評価と治療手技が説明できる。
3	Bobathアプローチ③（弓岡）	動作分析と触診に基づいた評価と治療手技が説明できる。
4	Bobathアプローチ④（弓岡）	動作分析と触診に基づいた評価と治療手技が説明できる。
5	Bobathアプローチ⑤（弓岡）	動作分析と触診に基づいた評価と治療手技が説明できる。
6	Bobathアプローチ⑥（弓岡）	動作分析と触診に基づいた評価と治療手技が説明できる。
7	脳卒中の原因と病態（宍戸）	・脳卒中の基礎知識を理解する ・脳画像の基礎知識を理解する
8	脳卒中の外科的・内科的治療（宍戸）	・脳卒中者に対する内科的、外科的治療を把握する
9	脳卒中の評価（宍戸）	・脳卒中者への定量的評価を理解する
10	脳卒中の運動療法(急性期)（宍戸）	・脳卒中急性期患者の運動療法時の注意点や方法を理解する
11	特殊神経疾患①（藤井）	特殊疾患について説明することができる。
12	特殊神経疾患②（藤井）	特殊疾患に行う理学療法について、意義・目的・方法を説明することができる。
13	パーキンソン病①（藤井）	パーキンソン病について説明することができる。
14	パーキンソン病②（藤井）	パーキンソン病に行う理学療法について、意義・目的・方法を説明することができる。
15	症例検討（藤井）	評価や治療、ゴール設定について、情報を整理・検討を行い、プログラムを立案することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	弓岡 光徳、宍戸 健一郎、他		実務経験紹介	理学療法士として約20年間、神経系関連医療施設に勤務(弓岡)	

科目名	内部障害理学療法学A				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	402教室・治療室
授業概要	代表的な循環器疾患の病態、症状、運動機能評価、理学療法プログラムについて学習する。不整脈の種類や心電図を用いた不整脈の判読手順を解説し、リスク管理について学習する。また、理学療法をすすめる際に必要となる心臓リハビリテーションについて解説する。								
一般目標	1. 循環器疾患の病態について習得する。 2. 循環器疾患患者に対する評価や不整脈、リスク管理について習得する。 3. 心臓リハビリテーション(特に運動療法)について習得する。								
テキスト 参考書等	呼吸・心臓リハビリテーション (羊土社)								

到達目標		
知識(認知領域) 授業で取り上げた循環器疾患および心臓リハビリテーション(特に運動療法)について説明できる		
技術(精神運動領域) バイタルチェック・視診・問診・触診・聴診が目的を持って行うことができる レジスタンストレーニング・有酸素運動などの負荷が適切に行うことができる		
態度(情意領域) 理学療法士として患者さんと真正面から向き合い、一生懸命理学療法を実践していくという、意思表示ができる		
回数	授業内容	授業目標
1	循環器疾患総論	・心臓リハビリテーションの定義・目的を説明できる ・心臓リハビリテーションの構成要素を説明できる ・心臓リハビリテーションの効果を説明できる
2	循環器系の解剖と機能	循環器(特に心臓)の構造と機能について説明できる
3	循環器系の症候と検査	循環器系の症候(自覚症状や身体所見など)、検査(心電図など)を説明できる
4	心臓リハビリテーション総論	・心臓リハビリテーションの有効性を説明できる ・心臓リハビリテーションの適応と禁忌が説明できる ・心臓リハビリテーションの運動療法の強度・頻度・種類について説明できる
5	虚血性心疾患のリハビリテーション	虚血性心疾患の病態、理学療法について説明できる
6	心不全のリハビリテーション	心不全の病態、理学療法について説明できる
7	開心術後のリハビリテーション	・開心術の種類について説明できる ・開心術後の理学療法について説明できる
8	患者教育について(食事指導など)	食事指導を中心とした生活指導について理解し説明できる
9	実技(バイタルチェック)	血圧、脈拍、脈圧、SpO2を測定することの意味を理解し、実践できる
10	実技(問診、視診)	目的を持った問診・視診が実践できる
11	実技(触診、聴診)	末梢循環、心尖拍動の触診、心音の聴診ができる
12	実技(レジスタンストレーニング)	適切な負荷・リスク管理を考えたレジスタンストレーニングが実践できる
13	実技(有酸素運動、運動負荷試験)	ボルグスケールやカルボーネンの式を使用し、エルゴメーターやトレッドミルでの運動負荷が実践できる
14	グループワーク(ホームエクササイズの作成、患者指導など)	症例に合わせたホームエクササイズの実施・患者指導ができる
15	試験対策	循環器の理学療法について整理することができる

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	金井 和明		実務経験紹介	理学療法士として約12年間、急性期病院に勤務(心臓リハビリテーション指導士を取得して約7年)	

科目名	臨床実習A					単位数	1	時間数	45	
授業形態	実習	対象学生	PT 2年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	なし	
授業概要	クリニカル・クラークシップ形式の実習のもと、診療参加を経験しながら、理学療法士を目指す目的意識を一層強固なものにすることができる。 実習前に1年次・2年次前期に履修した専門基礎科目・専門科目の復習を行う。									
一般目標	・臨床現場で求められる常識的態度や、責任のある行動を習得する。 ・意欲的に実習に取り組む姿勢を持つことができ、対象者(患者様・利用者様)とコミュニケーションを習得する。									
テキスト 参考書等	2年次臨床実習Aガイドブックを実習前に配布予定。									

到達目標		
知識(認知領域) ・実習前に1年次・2年次前期に履修した専門基礎科目・専門科目の復習ができる。		
技術(精神運動領域) ・臨床現場で求められる常識的態度や、責任のある行動をとることができる。 ・対象者(患者様・利用者様)とコミュニケーションをとることができる。		
態度(情意領域) ・意欲的に実習に取り組む姿勢を持つことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	各臨床実習施設において臨床参加をしながら、以下の項目を経験する I 職業人としての習慣・態度・業務理解(主に情意領域) II 基本的な理学療法の実施過程の体験 1 理学療法評価・治療の見学および体験(主に精神運動領域) 2 理学療法評価・治療の選択(主に認知領域) ポートフォリオ内で整理し記載 III 理学療法士観の育成(情意領域)	クリニカル・クラークシップ形式の実習のもと、診療参加を経験しながら、 ①実習前に1年次・2年次前期に履修した専門基礎科目・専門科目の復習ができる。 ②臨床現場で求められる常識的態度や、責任のある行動をとることができる。意欲的に実習に取り組む姿勢を持つことができる。 ③対象者(患者様・利用者様)とコミュニケーションをとることができる。 ④臨床現場において疾患や障害を自己の目で観察できる。(見学) ⑤理学療法評価、治療的介入で見学した内容について、いくつか模倣できる(模倣前期) ⑥リスク管理に対する意識を養うとともに衛生・安全面の配慮ができる。 ⑦個人情報保護、守秘義務等、医療人に必要な倫理観に基づいて行動ができる。 ⑧実習先である医療機関・施設の機能・役割を説明できる。 ⑨各医療職の役割とチーム医療について説明できる。 ⑩臨床実習ポートフォリオ(資料集)を作成し、その内容をまとめることができる。 ⑪⑤、⑥で経験した内容を学内で再学習し、専門用語を用いて報告できる。 ⑫理学療法士を目指す目的意識を一層強固なものにすることができる。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	川崎 裕史		実務経験紹介	理学療法士として医療機関に従事し、臨床実習業務に携わってきた。	

科目名	臨床実習セミナーⅠ					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	PT 2年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	402教室	
授業概要	臨床実習では、病態への理解や理学療法の評価・治療の実施に際して、解剖学・運動学・生理学などの基礎医学及び臨床医学における前提知識が必要不可欠である。本セミナーでは、これまで履修した基礎分野の知識定着度を確認し、専門分野の履修に必要な知識を国家試験水準で学習する。									
一般目標	臨床実習に必要な基礎医学(解剖学・運動学・生理学)や臨床医学(病理学等)の範囲を学習することで、自身の理解度や到達度を把握し、苦手分野を克服し習得する。									
テキスト 参考書等	基礎固め ヒント式トレーニング 改訂第2版 基礎医学偏(南江堂) Visualearn(医学映像教育センター)									

到達目標		
知識(認知領域) ・臨床実習に必要な前提知識(基礎医学、臨床医学)を習得する。		
技術(精神運動領域) ・前提知識の習得を効率的に進めるための、学習方法や対策を講じることができる。		
態度(情意領域) ・授業に参加することができる。 ・意欲的に学習を進めることができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(1)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
2	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(2)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
3	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(3)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
4	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(4)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
5	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(5)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
6	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(6)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
7	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(7)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
8	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(8)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
9	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(9)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
10	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(10)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
11	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(11)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
12	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(12)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
13	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(13)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
14	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(14)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
15	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(15)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	川崎 裕史		実務経験紹介	理学療法士として病院勤務の経験があり、実習担当業務に携わってきた。(川崎)	